

## 平成19年度 校内研究のまとめ

学校名（岡山県備前市立片上高等学校）

校長名（大塚雅嗣）

### 1 研究テーマ

わかりやすい授業をめざして

### 2 研究テーマ設定の理由

このテーマは平成18年度からの継続のものである。中学校で様々な理由により学習が十分でなかった者や、他の高校を中退して再出発を期す者など多様な生徒がいる本校の中で、教室での学ぶルールのもとで、基礎的な学力を身に付けさせ、学ぶ喜びを感じることができる授業の実践を目指して取り組んできた。しかし、こうした中で「わかりやすい授業」とは「楽な授業」とはき違えている生徒も少なくない。授業を大切にし、授業を受けるルールを身につけた生徒を育てるよう、教員も日々の努力が大切である。

そこで、授業公開を行い、互いの授業のよい点や問題点を研究しあうことで授業改善を目指し、授業力を高めることを目標とした。さらに、保護者を始め、中学校の教員や地域の人に「開かれた学校づくり」を行うことで、より理解を求めたいと考えた。「わかりやすい授業」の開発・実践で、生徒が片上高校の学習を喜び、生涯にわたり学習に取り組める人間に育つように、また、教員組織の強化・活性化を目指して設定した。

### 3 研究内容及び成果

#### （1）研究方法

生徒把握を進めるために、中学校への訪問、中学校への授業参観を実施した。その後、感想等の報告会を行った。また、授業公開による授業改善の方法を探るため、「授業公開記入シート」や授業についてのアンケートを実施した。

#### （2）研究内容

新入生についての状況把握のために、5月に出身中学校への訪問を行った。新入生の担任を中心に、数名で各中学校を訪れ、その生徒の担任や学年団の教員から情報を得た。

6月に2週間の授業公開週間を設け実施した。6月の授業公開は、校内への公開に限定し、教員間での授業評価を行った。授業者は、その授業内容のポイントや工夫など評価してもらいたい点を事前に「授業公開記入シート」に記入する。授業の参観者は、授業を参観し、そのシートに評価（感想）を記入して、教務の係に提出する。係が集計するとともに授業者にもそのコピーが渡るようにした。7月になって、研修会を行った。

9月に、中学校の授業を参観した。

11月に2週間の授業公開週間を設け実施した。校外からの参観も求めるため、近隣の中学校に案内をし、また保護者にも案内を行った。参観者からは、アンケートの形で授業の感想を聞いた。

### (3) 研究の成果

中学校からの情報は非常に有用であった。予定した中学校への訪問終了後、情報交換会を開き、生徒情報の共有化を行った。授業方法を考えていく際に、役立った。本校では、授業の80%に自作のプリントを使用しているが、その内容や、さらにそれを補助する教材の開発が行えた。

6月の授業公開は、昨年度に引き続き校内の教員に向けてのものとした。それぞれが教師という専門の立場で、授業者の工夫した点や生徒との会話術など得るものも多かった。また、授業者も授業を公開することによって、より緊張感をもって行え、また、生徒の普段と違う様子で生徒に対する評価を新たにすることができた。

9月の中学校の授業参観後、それぞれが参観した授業について報告をしあった。落ち着いた状態での授業に、参考にする点が多く見られた。

残念ながら中学校からの参観者はなかった。保護者の参観も少なかったが、中学生やその保護者、また、転校を考えていた他校の高校生とその保護者による授業参観があった。アンケートによって、その感想を伺ったが良好な評価を得ていた。また、6月に引き続き、教員間での授業参観も行いさらなる授業改善を行う機転となった。

## 4 今後の課題

昨年度に引き続き、同じテーマで研究したが、教員同士の授業参観は、時間割の関係で空き時間しか参観することができず、すべての授業を見ることはできないという状況がある。授業参観が授業改善には繋がらないとの意見もあるが、中学校からの情報をいただき、より生徒に応じた教材開発や授業方法を見いだす努力は必要と考えられる。

授業改善のための取り組みであることは、生徒には伝え理解させて行っている。校外からの参観者を増やし、授業改善の糸口をつかむことと、本校の現状をより多くの地域の人に理解していただくことを目的として、今後も続けていくことが必要と考える。参加者をどのように確保するかが課題として残っている。